

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	きららSTEM西冠		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 10日		2025年 1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	2025年 2月 3日		2025年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別対応ができる環境である	子ども達と向き合う時間を長く確保することで信頼関係を築き、家庭や学校では話せない気持ちや気になる言動に気づき、それらを共有することができるよう努めています。	特定の職員に偏ってしまうことも考えられるため、多様な視点を持つことができるように、すべての職員と関係を構築するのは難しいものの、複数の職員と信頼関係を築くために担当を固定しないように取り組んでいます。
2	療育で使用するツールにIT機器を取り入れている	今後の社会動向を踏まえ苦手と感じることもツールを活用することでサポートできることを知ってもらい「出来ない」「無理」と思わず、活用方法を学びながら自分の可能性を広げ、自信を持ってほしいと考えています。	IT機器やAI,ゲームの影響について、保護者を含む周囲の大人が理解を深めることが必要です。これらのツールは便利ですが、不安な点もありその不安がどのようなものであるかを正確に把握し、正しい使用方法を共有することが大切です。さらに、情報提供を通じて、より良い理解を促進する取組みたい
3	立地環境が便利	事業所前にはバス停があり、自主通所の練習にも比較的挑戦しやすい環境です。車道や歩道の幅も広くまた、近くには買い物施設もあるため子ども達と日常生活の活動に活用しています	子ども達がバス利用の練習を行えるイベント、ワークショップや講習など子ども達の自信を高めることに、つながる取り組みを検討していきたい

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	小集団活動での対応力	個別対応に重点を置いてきたため、職員の小集団をみる対応力が十分に育っていないと感じる場面がある。	各職員の役割を明確にし、適切なタスクを割り振ることで、職員の負担を軽減し、効率的な小集団対応ができるようにする。
2	IT機器への苦手意識	プログラミングという言葉への先入観があり難しいと考えてしまう職員が多い	実際の業務や生活でプログラミングが問題解決や業務効率化にどのように寄与するかを具体的に説明し身近なものに感じてもらえるよう引き続き伝えていく
3	事業所内部の構造	事業所内の壁が多く、小集団活動を行う際の内容が制限されています。また、職員の相談スペースがオープンであるため、プライバシーを確保しにくく、悩みの相談がしづらい問題があります。	小集団活動を時間帯ごとに分散させることで、空間の有効活用を図っていく。可能であれば、小規模な個室を設置し、職員がプライバシーを確保した状態で相談できる環境を整えたい